

IV 3要素について

協働的学習に必要な3要素（『コミュニケーション力』・『思考力・表現力』・『再構成力』）を育てる具体的な取り組みの一部を紹介します。

コミュニケーション力

確認する伝え合い

学習内容や学習箇所を確かめ合うこと、自分の考えを友達と伝え合うことなど、確認のための交流の時間を設定しました。

自分の思いや考えを伝え合い、共感し合うことを通して、児童が安心して学習に取り組めるようにしています。また、児童の発言する機会を増やすことにもつながっています。

聞き方名人・話し方名人 話し合い名人

コミュニケーション能力の素地を育成するために、聞き方や話し方の基本的な視点を各学級に掲示しました。日々の学習に取り入れることで、児童は話すときや聞くとときに大切なことが分かり、よりスムーズな話し合いが行えるようになってきました。

『話し合い名人』は、児童が互いに話を引き出したり深めたりすることに役立っています。



思考力・表現力

ハンドサイン



他者の意見に対して自分の考えをハンドサインで示す活動を取り入れました。3つのハンドサインを活用して、全員が主体的に授業に参加できるようにしています。ハンドサインを活用することで、一部の児童だけが意見や考えを表現するのではなく、相手の意思を受けとめ、それに応えて意思表示するので、思考の深まりに役立っています。



友達の考えを代わりに発表する

自分の意見や考えを全て発表するのではなく、他の児童がその児童に代わってどのように考えたのかを思考する機会を設けました。例えば、算数の時間に「 5×4 」と一人が式だけで表現したものを発表し、他の児童がその式を読み取り、どのように考えたのかを考えさせます。これにより、他者の考えを理解するとともに、問いに対して自らの思考を深めることもできました。

再構成力

短冊・付箋の活用

短冊は、全体での話し合いでそれぞれの考えを可視化することをねらいました。黒板上やワークシート上で操作させることで、比較や分類などを促し、再構成に役立っています。

付箋は、友達からの助言内容や自分の気づきを、必要に応じて並び替えをしたり、取捨選択したりすることで、考えを整理することに役立ちました。

広げる板書

協働的学習を通して、考え広がったことを実感できるようにマッピング方式で黒板に書き加えるようにしました。この板書を活用して、もう一度自分の最初の考えと比べて再構成させることができます。さらに、「広がったもの」から、自分の納得できる考えを選ぶことができるようにしました。また、「皆で広げよう！」と、学習の意図を明確にしています。



3要素を育てるために、効果的な手だてを日々の授業で盛り込んできました。

V 学習環境

ハンドサイン



教室に掲示して、いつでも確認できるようにしています。

1 単位時間の流れ

1 時間の流れ

- 課題をつかむ
- 考えをもつ
- 考えを表す
- もう一度考えなおす
- 考えをまとめる
- ふりかえりをする (学びを次に生かす)

聞き方・話し方 話し合い名人

聞き方名人	話し方名人	話し合い名人
反応して	目的に合わせて	こんな言葉をつかってみよう
相手の思いを認め	聞き手の反応を見ながら	<ol style="list-style-type: none"> 1. もう少しくわしく教えてください。 2. OOさんは どう思いますか。 3. どこで そう考えましたか。 4. たとえば どんなことですか。 5. もう一度 考えてみましょう。 6. ほかに は ありますか。 7. どんなことでも いいですよ。
良さを認めながら	言葉を選び	
話し手の意図を考え	よく聞こえる声で	
自分の考えと比べて	最後まで	
聞こう	話そう	

ふりかえり

協働的学習 振り返り(3~6年用)	
① ミュニケーションカ	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを受け入れ、うなずいたり、ハンドサインを出したりして反応することができた。
② さんがえ、あらわすカ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをすすんで伝えることができた。 ・感想を言ったり、質問したりできた。 ・根拠をもって、相手に伝えるよう分かりやすく表現できた。
③ よりよくなるカ	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことから、自分の考えを見直すことができた。 ・次の学習への見通しをもつことができた。
(よくできた ○ できた ○ がんばりでもった △)	

協働的学習を行うときに、黒板に貼ります。ユニバーサルデザインの観点から色を決めました。

児童が振り返りの際に活用できるように拡大して掲示しています。

協働5種マグネットカード

決める

つくる

見付ける

広げる

まとめる

座席の工夫例

3人で話し合うときに、真ん中の机を少し下げることでお互いの顔が見えるようになるので、話し合いが活発になります。



ICTの活用

板書と電子黒板を組み合わせることで、学習の理解が深まります。



VI 振り返り

学習の振り返りを行うことは、児童にとって、その時間の学習のめあてについて何が分かったのか、何ができるようになったのかを自覚し、確認することにつながります。そして、次時の学習に対する、見通しをもつこともできます。また、教師にとっては、それぞれの児童の理解の状況や考えの深まり、意欲の高さ等を把握することができ、次時の指導に生かれます。

そこで、本校では、その時間の教科のめあてについての振り返りを文章で書かせるようにしました。また、協働的学習については、その時間における、『3要素』の中の重点項目を選び、記号（よくできた◎、できた○、もう少し△）で振り返らせることにしました。教科のめあてについてと協働的学習についての振り返りの2つの視点を文章で書かせることは、時間もかかり、児童にとって負担になると考えたからです。教科の振り返りを文章で書く中には、「協働的学習を行ったことで、本時のめあてに迫ることができた。」というような記述も多く見られ、協働的学習の効果を児童も実感していることが分かります。なお、教科や学習の使用教材（ノートやワークシート）により、振り返りの形式には若干の違いがあり、その教科や単元に応じて取り組んでいます。

6年 国語科
「随筆作家になろう」

3年 道徳科 理解し合う友達
「いいち、にいつ、いいち、にいつ」

2年 生活科
「でんえんちょうふの町のすてきを見つけよう」

◎◎◎◎◎
感想
自分で経験や思いが伝わるように構成を考えよう。
あるの構成について、意見をおしゃしなう。
いいですね！読んだ人の意見ももらってよりよくなると思います。

③	②	①	
学んだことから、自分の考えを見直すことができたよ	自分から考えを進んで伝えることができた、か	友達のを考えを受け入れ、反応することができた、こ	ふりがえること
◎	◎	◎	◎よくできた ○できた △もう少し

テーマについて考えたこと、学んだこと、大切にしたいと思ったことなど。
友だちとのかんけいをふかめるには、ききかして声をかけていくと、そのことをのりこえられて、二歩前に進める。
話を通して自分の考えを伝えることができたね。

「でんえんちょうふの町のすてきを見つけよう」 ふりがえり
名前 _____
☆ほっぴょうしたり聞いたりして、思ったことを書きましよう。
ほっぴょうもまたなうひがいにいってまたいかにでがしをしてみたいです。あひょうした人がいてくれたのをこんどはさがしてみたいです。ほんのみんぱとてきつうれのかた。いろいろはうひがいにばいあてたのしかたです。
とどろちが見つけたすてきをいぶんもさがしてみたいというのは、さかぶがたといふことですね。とても。

本時のことを枠内に書いています。友達の発表を聞いて、「また見学に行き、よいところを探してみたい。」と次の学習への意欲をもっていることが分かります。協働については、『コミュニケーション力』と『よりよくなる力（再構成力）』について、振り返りをしています。『よりよくなる力』が◎なので、自己評価が高いと、教師も見とることができます。

『コミュニケーション力』について記号で振り返りをしています。次に、本時の学習についての振り返りを文章で書いています。

右側に、道徳科の本時のテーマについての自分の考えを書いています。教材文を通して考えたことが具体的に書かれています。左側に、協働的学習の『3要素』についての振り返りの表があります。

児童用「協働的学習の振り返り」（観点別自己評価）の表は、P.6に掲載しています。





VII 協働的学習 教師用『田小ルーブリック』評価

＜教師用『田小ルーブリック』評価＞

教師自身がその時間にどのような協働的学習の力（『コミュニケーション力』、『思考力・表現力』、『再構成力』）を育てようとしているかを明確にすることで、児童がよりよくかかわり合う力を高める協働的学習を行うことができるようになると思えました。

中学年・高学年（3～6年生）			
	より望ましい協働的学習の力が付いている	協働的学習の力が付いている	＜手だて＞
コミュニケーション力 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見を価値付けることができる。 発言を促す役割ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を見て話を聞くことができる。 友達の考えを受け入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の方を向く。 「聞く」ポイントを具体的に示す。 話型を示す。 表現方法を示す。（図、例文、穴埋め、比較等） 望ましい児童の姿を価値付け、紹介する。 話し合いを進める立場等の経験を積ませる。
思考力・表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合った意見を整理して話せる。 思考の流れが分かりやすく表されている。（可視化されている。） 自分の考えを筋道を立てて端的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをすすんで伝えることができる。（感想を言ったり質問をしたりできる。） 相手に伝わるよう、分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な視点を示す。 望ましい児童の姿を価値付け、紹介する。
再構成力 	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは違う考えと結び付けて自分の考えを見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことから、自分の考えを見直すことができる。 次時への見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の方を向く。 「聞く」ポイントを具体的に示す。 望ましい児童の姿を価値付け、紹介する。

低学年（1～2年生）			
	より望ましい協働的学習の力が付いている	協働的学習の力が付いている	＜手だて＞
コミュニケーション力 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを受け入れ、感想を言ったり質問をしたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見に反応できる。（うなずいたり、ハンドサインをしたりする。） 目的をもって、話し合いに参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい児童の姿を価値付け、紹介する。 話し手の方を向く意識をもたせる。 「聞く」ポイントを具体的に示す。
思考力・表現力 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるよう、分かりやすく表現している。 根拠を基に、自分の考えをすすんで伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもちそれを伝えている。 自分の考えを書き表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい児童の姿を価値付け、紹介する。 話型を示す。 表現方法を示す。（図、例文、比べる等）
再構成力 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことから自分の考えを見直すことができる。 次時への見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい児童の姿を価値付け、紹介する。 具体的な視点を示す。

児童の発達段階や実態に応じた手だてを講じ、次の段階へ引き上げていけるようにしています。